

え

る

の

あ

目次

報告 女性プラザ祭2016講演会……………1	インフォメーション……………3
女性プラザ祭2016レポート……………2	

報告 女性プラザ祭2016講演会

炭鉱の盛衰から得た教訓



札幌国際大学観光学部
国際観光学科 教授
(NPO法人炭鉱の記憶推進
事業団 理事長)

吉岡 宏高さん

昨年11月10日に開催した女性プラザ祭2016講演会から、内容の一部を紹介します。

北海道の一時代を築いた炭鉱、「炭鉱は暗い」「負の遺産」と言われていますが、私自身が炭鉱の出身で、暗いと思ったことはありません。大学の教員をしながら、自分の時間の8割の力を注いでNPO法人炭鉱の記憶推進事業団で活動しています。数年前に「地方消滅」という本が発行されましたが、これは日本全体にある危機感であり、空知が歩んだ道はこれから日本が歩んでしまいかねない道でもあります。過去を振り返り、未来を考えることが力になると思います。

脱炭鉱政策の失敗例として、夕張石炭の歴史村、芦別カナディアンワールド、歌志内チロルの里構想など、大きなお金が使われました。今風の言い方で言うと“持続可能な”の真逆。空知にないものを使って、どこでもやっていることをした。本来は「あるものを生かして、ないことをする」ことが大事です。

幸い今でも炭鉱(ヤマ)の「記憶」が残っています。立坑やズリ山、炭鉱住宅。炭鉱で使う電気を100kmも送電していた発電所。今なお、年間80万トンの石炭が採掘され、内陸型の商業発電所で60万キロワットの発電が行われています。

20年前に、足元に残っているものをもう一度知り、そして様々な方にそういう場を体験してもらおうと、毎年7月に、三笠と幌内の間の鉄道、約3キロ区間に

ロウソクを灯すイベントをしました。また、私は、大学の学生の選択課題に、三笠に来て、元炭鉱マンと一緒にする作業を入れています。そこで学生は坑内で生き死に関わる中で作業してきた人の持つ迫力に触れるわけです。

2005年に夕張で、空知産炭自治体の全首長を集めた「炭鉱遺産サミット」の開催に携わり、さらに、その後、道の政策として「元気そらち！産炭地域活性化戦略」を作ってください、今は10年計画の7年目。その基本的な考え方は、「まち力」「創造都市」「地域マネジメント」の3点セットで地域内外を結ぶことです。

相変わらず「暗い」と思い込んでいる人もおり、一方で固定観念がない外の人に「すごいね」と言ってもらえるものがあります。これまでの状況は、鶏と卵の関係で閉塞していましたが、これをいかに崩し、次の新しい動きを起こすか。それには、内外の間を結ぶ仲人のような人が必要で、それが私たちの事業団が果たすべき役割だと思えます。

先が見えない時期はまずは実践し、走りながら考えることが大事であり、総力戦をやらないといけな時期に入ってきました。私は女性の持つ、発想を超える柔軟さに期待したいと思っています。

その中で心掛けていただければと思うことが二つあります。一つは「遠投力」。目先の話ばかりではなく、将来への構想をできるだけ遠くに飛ばすこと。もう一つは、「未来のストーリーを描く」ということですが、それはできるという実感を伴ったものである必要があります。それにはどうすれば良いかという実践です。やってみると少しずつ世界が変わる。今まで反対していた人が理解してくれたり、思わぬ応援者が出てきたりします。

私は、理屈や能書きが大事な男性より、女性の方が行動できると思っています。女性のみなさんに突破口を開いてもらいたい。女性の視点で様々な希望の灯を灯していただければと思います。

昨年11月7日から12日まで開催した女性プラザ祭2016には、全道からたくさんの方に参加していただきました。

7日のオープニングコンサートは、クラリネットと電子ピアノによるミニコンサート。8日のDVD上映会では、『マイ・インターン』が上映され、会場となった交流フロアは、普段と違った空間となりました。



オープニングコンサート



DVD上映会

10日のメインの日には、表紙でご紹介した、吉岡先生の講演のほか、「行動する女性のネットワーク」主催の「ライフセミナー」を開催。「北海道ジェンダー研究会」主催の「憲法カフェ」では、満員の参加者に、憲法に関する関心の高さが伺え、お茶をいただきながらの有意義な意見交換がされました。



憲法カフェ

女も男もワイワイセッション



私のセカンドライフ
～地域にホットする居場所を～

あさ夕喫茶 ぷらっと店主

羽田雅俊さん

私が住む石狩市花川北地区は、昭和52年に一斉に宅地化され、その時住み始めた方は、既に70から80歳となり、大変高齢化が進んでいます。私がここで喫茶店を始めたのには、退職のタイミングと地域の都市計画の見直しで、お店が開けるように緩和されたことがあります。ここに住むお年寄りに、希望が与えられないかと考えました。

喫茶店を開くことを決めた理由はいくつかありますが、コーヒーを淹れるあの瞬間が好きで、バックに音楽が流れていれば最高だとずっと思っていたこと。人と話すのが好きなこと。また、私は朝4時か5時に起きて、1時間ほどウォーキングをしています。近くの大きな公園で、ある時ラジオ体操をしている人を数えたら100人もいて、この人たちもこの後、コーヒーが飲みたいたらうと考えていました。そんなこともあって、再雇用で66歳まで働いた職場で、職員にコーヒーを淹れてあげながら、講座を受けて勉強もしました。

現役時代はそれほどプレッシャーはなかったつもりですが、退職が近づき、無理せず自分が自分らしくできて、若干の生活の足しにできることがしたいと考え、ウォーキングの時に見つけた民家を買いました。トイレの修繕と一部のテーブルを買い入れる他は、娘や息子のお嫁さんに手伝ってもらいながら、DIYで壁紙を貼り、家にある物や頂いた物で、案外安く喫茶店を開業できたのが、今年の5月です。一見、普通の家ですが、中に入ると、自分の生活空間とは違う空間があって、ホットするといわれます。「街の喫茶店には敷居が高くて入りにくい」というお年寄りにも来ていただけるそうです。

実際開業して分かったのが、お年寄りはずしも、コミュニティに加わりたい人ばかりではないということです。ひとりの方が気楽と思う人も、出かけて誰かと話をして欲しい。その人たちが入りやすい喫茶店、居場所になればいいと思っています。

男のセカンドライフは、退職してから考えようとしてもなかなか難しいことから、自分がやりたいこと、やって苦にならないこと、イキイキできることを考え、そのためには何歳くらいから何を始めたらよいかを考える必要があります。私は、妻が大きな活動をしており、子ども4人を二人がかりで育て、子どもが育つには、地域で育てないといけないと思っていたので、PTAの役員、子育てサークルや地域の子ども会の育成などもやりました。そういう意味では、私は当時イクメンでした。若い時からそういう繋がりを持つ男性なら、何かできると思います。

65歳で退職したとして、その後20年の人生をただ家に居て、妻がかけるとき「どこ行くんだ？」ではいけない。妻と別のイキイキできる場所があれば、もっと健康寿命も延びると思うのです。

これは私の勝手な考えですが、終活のときに、20年以上前の職場のことを第一に思い出すでしょうか。むしろその後、地域でどう生きたか、どういう人達と関わったかであり、その時にこの人達に囲まれて、良かったな、幸せだったなと感じることができるのではないかと思います。

テーマ：「イクメン（男性の地域参画）」

*イクメンは地域の域。活き活きの活き。仕事だけではなく、地域でイクイク活動する男性。



まちづくりに定年退職は無い
～現役時代のノウハウと
女性に期待すること～

札幌駅前通まちづくり株式会社
代表取締役社長 白鳥健志さん

これまで地域活動は“町内会活動”が主導してきましたが、高齢化社会の到来やコミュニティの疎遠化等により地域活動そのものが低下してきました。それを補完しているのがNPO的な活動で、本来は両方が盛んであるべきと思います。私は、個人が地域と良好な関係を持ち暮らしていくことが人間社会の根幹だと思っており、ある意味まちづくりに重なるものと考えています。

私はまちづくりをしたいという思いで札幌市役所に入りました。20年間ほど都市計画や都市再開発などの仕事をしましたが、ある時、木造建物が密集・老朽化している地区で商店を営むお年寄りが二人いて、お二人とも生涯ここで商売を続けたいという方でした。私はこのままでは火災などの危険性が大きいので、建替する新しいビルに入って商売を続けるよう勧めました。その甲斐あって、一旦は新しいビルで営業を始めたのですが、5年ほどで二人とも廃業してしまいました。以前は、雨なら早仕舞いし、体調が悪ければ休んだり、自分のペースで商売できたのに、ビルではそれが許されず。その時私は、都市全体を考えて行ってきたことが、結果的には“そこに暮らす人の希望を奪っている”という現実を感じました。このままで良いか、かなり悩みました。そういった時、私の背中を押してくれたのが三人の女性です。「ウジウジしていても仕方ない。実際に市民の目線に立って、まちづくりを体験しなければ知り得ない。」と、スパイクで尻を蹴飛ばすように叱咤・激励されました。

そういったことで、40歳後半から市役所の仕事を続けながら、そこで暮らす人たちの心を優先したまちづくりを考えたいと、NPOの活動を始めました。今の会社は、退職が近づいた頃「札幌駅前通に地下歩行空間ができ、そこを管理する会社が立ち上がる。単に広場を貸すというのでは、活性化にならないので、色んな人を巻き込んで地域の活性化に繋げたい。ぜひやって欲しい。」という話があり、悩みましたが、引き受けることにしました。まちづくりに定年退職はないと実感した時です。

さて、女性とまちづくりの関係ですが、札幌市に登録しているNPOのうち、25%が女性の代表者です。女性は全体のフレーム作りが苦手とよく言われますが、慣れればできます。女性は調整役が得意で、特に様々な方と話し合い、繋いでいくことが上手です。覚えておいていただきたいのは、自分一人で行わず、行政、特に市役所を味方につけて下さい。グループで意見交換し、策を練って下さい。

最後にこれが一番大事かと思うのですが、ご主人とか男の人の尻を愛情込めて蹴飛ばして下さい。「一緒にやろう」と。それらの人たちの味方につけて、人の話に耳を傾け、行政を巻き込んで進んでください。フレーム構築は行政が得意です。まちづくりには人為的なネットワークの構築が求められますが、そこに女性の活躍の「場」があります。



つながる・みつかるフェスタ札幌 in 女性プラザ

つながる・みつかるフェスタは、女性プラザサポーターに登録している「働く女性の笑顔がにつながるプロジェクト『North-Woman』」が主催するイベントで、プラザ祭では初めての試みとなります。

昨年4月に女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が施行され、女性の活躍が期待されているところですが、女性の様々な働き方を知ってもらう機会、紹介する場となりました。

また「プラザマルシェ」では、ボランティアビューローコスモスによるバザーと女性農業者グループによる販売会が、11日には「北海道女性団体連絡協議会」主催の「女性セミナー」が行われ、盛りだくさんの内容で、賑やかなプラザ祭となりました。



プラザマルシェ



女性セミナー



インフォメーション

ケアメン講座開催

超高齢化する社会はみんなで介護を支えなければならぬ社会です。

ケアメン(男性介護者)として、親や妻の介護を担う男性は130万人を超え、介護者の3人に1人が男性と言われています。

この講座は、男性介護についての情報を共有し、介護技術講習でも要望の多い「入浴」と「排泄」介助について実習する、情報交換とスキルアップの場として活用していただくための講座です。

日時 平成29年3月11日(土) 13:30~15:30
会場 かでる2・7 7階 730研修室
(札幌市中央区北2条西7丁目)

男性介護の特性と介護保険制度について

講師：さっぽろ社会福祉士事務所
代表 大島康雄さん
(社会福祉士・精神保健福祉士)

介護技術講習(入浴・排泄介助)

介護福祉士2名を講師に、二つのグループに別れ30分ずつ体験していただきます。

介護交流会(自由参加)

講座終了後、希望される方たちで日頃の疑問や悩みをざっくばらんにお話ししましょう。

参加料：無料
定員：25名(パートナーの方も一緒にどうぞ)
申込：女性プラザ受付又は電話でお申し込みください。 ☎011-251-6349
9:00~17:00 日曜・祝日は除く

情報提供フロアより

ピックアップ書籍 平成28年度新着図書から



なるほど! 育じい道
お医者さんが実践している孫育て術
石蔵文信 著
講談社



あなたのまちの政治は、
あなたの手で変えられる
五十嵐立青 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン



女は覚悟を決めなさい
人生に立ち向かうための脳科学
黒川伊保子著
ポプラ社



女性が管理職になったら
読む本「キャリア」と「自分らしさ」を両立させる方法
ギンカ・トーゲル 著
日本経済新聞出版社

女性プラザの図書は、2週間5冊まで借りられます。

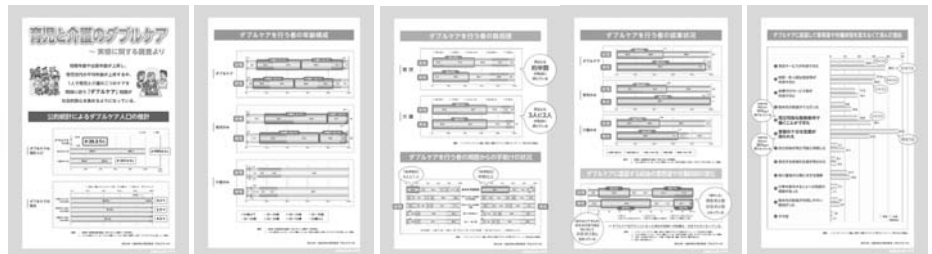
貸出時間

月~金曜：9時~20時(土曜は17時まで)
利用者登録が必要です。

パネルの貸出について

毎年女性プラザ祭の時に作成した男女平等参画に関するパネルは、地域での啓発活動などにお使いいただく場合、貸出を行っています。

平成28年度
「育児と介護のダブルケア
~実態に関する調査より」



(寸法 各 縦73cm×横52cm) 計8枚

※平成15年度以降作成したパネルは、女性プラザホームページで見ることができます。

詳細については、お問い合わせください。

- 「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
- 「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と北(North)の造語です。

発行 / 北海道立女性プラザ(指定管理者: 公益財団法人北海道女性協会)
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階 (011)251-6329・6349

【ホームページアドレス】 <http://www.l-north.jp/>

(休館日: 日曜・祝日・年末年始) (開館時間: 月~金9:00~21:00, 土9:00~17:00) *申込・お問い合わせは9:00~17:00にお願いします。